

がんの情報が得られる主なサイトや相談窓口

<p>情報サイト</p> <p>▼がん情報サービス http://ganjoho.jp/public/index.html</p> <p>不安との向き合い方や病気・治療の解説、がん関連の統計などを掲載している</p> <p>▼医療情報サービスMinds(マインズ) http://minds.jqhc.or.jp/n/</p> <p>標準治療を紹介した患者向け診療ガイドラインを掲載。独自のわかりやすい解説も載せている</p> <p>▼がん情報サイト http://cancerinfo.tri-kobe.org/</p> <p>米国国立がん研究所(NCI)が配信するがん情報の日本語版を掲載</p> <p>相談窓口(電話の通話料は自己負担)</p> <p>▼がん情報サービスサポートセンター 0570-02-3410</p> <p>平日午前10時～午後3時、無料で電話相談を受け付けている</p> <p>▼日本対がん協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん相談ホットライン 03-3562-7830 ・祝日を除く午前10時～午後6時、無料で電話相談できる ・医師による電話・面接相談 03-3562-8015 ・電話で20分、面談で30分、専門医に治療について無料で相談できる。予約制 <p>▼全国のがん相談支援センター</p> <p>がん情報サービスで最寄りの場所を検索</p> <p>電話や面談で相談。がん診療連携拠点病院などが設置している</p> <p>患者団体など</p> <p>▼全国がん患者団体連合会 http://zenzanren.jp/</p> <p>乳がんや胃がん、肺がんなどがんの種類に応じた患者会を紹介する</p> <p>▼がんと共に生きる会 http://www.cancer-jp.com/</p> <p>がんに関する勉強会や患者交流会を開いている。2011年には病気・治療の解説から医療費・制度まで幅広く紹介する情報サイト「大阪がんええナビ」(http://www.osaka-anavi.jp)を開設</p>
--

「無理に頑張ったり、平静を装ったりする必要はありません。がんになったのは決してあなたのせいではありません」「つらい気持ちを含め、家族や友

国民の2人に1人がかかるとされるがん。インターネットなどには様々な情報があふれている。手術や抗がん剤、放射線と治療の選択は多く、決断する上で患者や家族がこうした情報を参考にすることは多いだろう。もし告知されたら

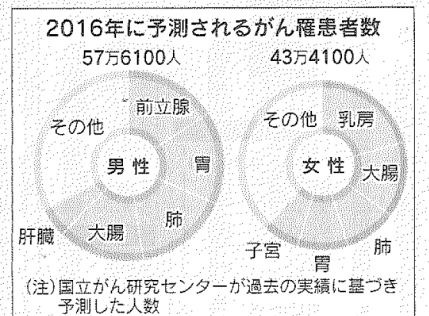
がん告知されたら 納得いく治療へ情報集め

電話・面談「気軽に相談を」



日本対がん協会は看護師や社会福祉士が相談に応じる(東京)

人に打ち明けてみましょう。アドバイスは患者や家族、医療従事者が患者側の視点で取りまわす。サイトからは主治医の説明で理解できなかった点や受けた治療を記録できる「わたしの療養手帳」をダウンロードできる。自分の状態や治療方針を整理するのに活用したい。がん情報サービスへのアクセス件数は15年度の月平均で228



がん罹患予測 今年100万人突破

国立がん研究センターは「がん情報サービス」で、過去の実績を数学的に補正し、その年のがん罹患(りかん)者数などの予測を公表している。それに基き、2016年に見込まれるがん罹患患者数は15年より約2万8000人多い101万2000人。100万人突破は初めてという。

16年予測によると、男性の罹患者は57万6100人、女性は43万4100人。がんの部位別にみると、大腸がんが約15万人で最も多く、胃がんと肺がんが約13万人、前立腺がんと乳がんが約9万人で続いた。

一方、16年にがんで亡くなる人は37万4000人と予測。最多は肺がんの約8万人で、大腸がんや胃がんが約5万人となっている。

万件。3年前の約2倍だ。気持ちがある程度落ち着けば、病について知りたくなるはず。サイトでも情報は得られるが、同センターが運営する「がん情報サービスサポートセンター」を利用するのも一手だ。平日の午前10時～午後3時、電話で話を聞くことができる。相談料は無料だ。眼腫瘍など希少がんで治療実績がある病院も教えてくれる。15年度の相談件数は約3100件。同センターは「がん対策情報センター」の高山智子がん情報提供部長は「研修を受けた相談員が対応しているので気軽に電話を」と呼び掛ける。

治療法を詳しく知りたいなら、日本医療機能評価機構(東京・千代田)が運営するサイトMinds(マインズ)がお薦めだ。学会などの診療ガイドラインを評価し、科学的根拠に基づき一般向けのガイドラインを掲載。専門医らが協力した「Minds版やさしい解説」も閲覧できる。

主治医とは別の専門医の意見を聞きたくなるかもしれない。日本対がん協会(東京・千代田)は専門医が電話や面談で無料相談に応じる。電話なら1回20分、面談なら30分。治療方針や投与されている抗がん剤などについて相談できる。

「治療しない方がよい」と書いてあった「この水や健康食品が効くとネットにあった」。専門医窓口

そのモデル、静岡県立静岡がんセンター(同県長泉町)の「よろず相談」は医療ソーシャルワーカー7人が対応。担当者は「対面を優先し、予約なしでも待たせず相談に応じる」と話す。がん闘病は長い道のり。情報や支援の輪を上手に生かしたい。

(吉田三輪、編集委員 木村彰)